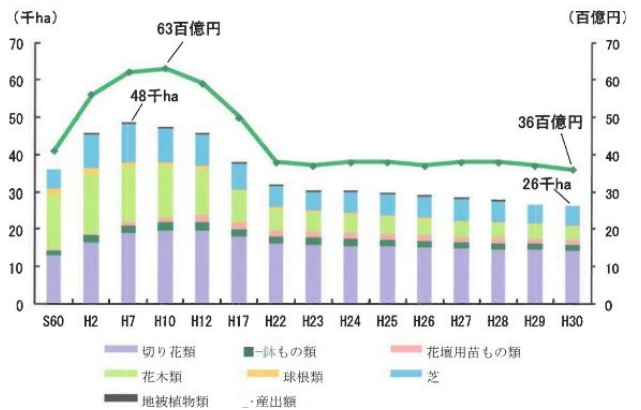




§1 日本における花き市場について

日本における花き市場は、1998年の6300億円がピークでありました。その後は減少傾向が続き、2016年では3788億とピーク時に比べ約40%減少しました。その内訳をみると、キクで614億、洋ラン353億、ユリ202億、バラ164億、花木類146億、観葉植物122億であります。また、1世帯当たりの生花の購入金額は、1997年が13130円であったのに、2017年では8757円と約20%減少しております。栽培農家も2000年で88000戸ありましたが、2015年では54000戸となりました。年々、小さくなっていく市場ですが、主な要因として、公共投資、建設需要の減少によることや、取引先への贈答、冠婚葬祭、仏花、物日(イベント、催し物)等の需要の減少があると思われます。また、昨年発生した新型コロナウイルス感染の影響も大きく、2020年3~5月期では、多くのイベント(卒業式、歓送迎会)が自粛され、需要の低迷により花が破棄される「フラワーロス」が発生し、約3300万本の取扱いの減少、額にして41億の減少となりました。

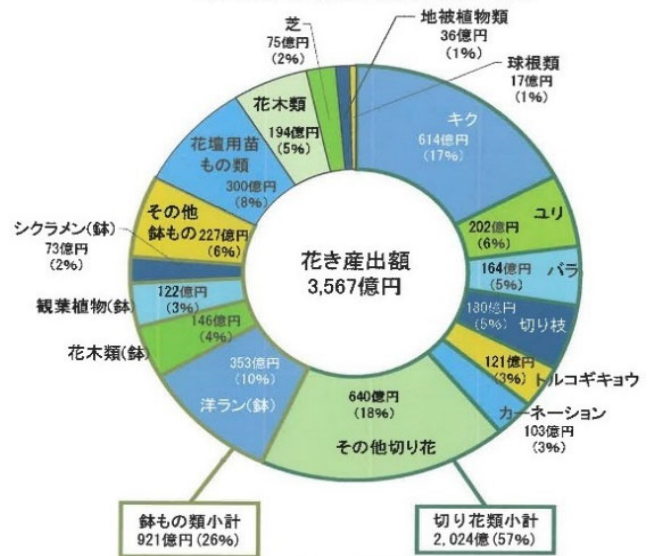
＜花きの産出額・作付面積の推移＞



＜花き生産農家の抱える問題＞

- ① エネルギー問題：経営費に占める燃料費の割合が大きく、施設園芸の経営を圧迫しており、燃油価格の影響を受けにくい経営構造への転換が求められる。
- ② 輸入品との対抗：海外産は製造コスト(輸送コストを含めて)が安価であることや、季節に関係なく供給が可能であること。
- ③ 流通経費の問題：卸市場経由での販売が80%あり、小売店での加工や廃棄ロスの経費が大きく、生産者の受取価格が30%程度であること。
- ④ 需要の減少：少子高齢化による花き需要の減少に歯止めがかからない。

＜花きの産出額の内訳(平成30年)＞



資料：農林水産省「生産農家所得統計」、「花木等生産状況調査」

厳しい状況の業界ですが、花と緑には、「ストレス軽減」「社会性の向上」「認知機能の改善効果」等に効用があると言われており、コロナ禍での自宅時間の増加に伴い、花や緑を飾りたいという人が増えてきていることもあります。また、国としても「花き」の消費拡大のため、「花いっぱいプロジェクト」の開催や、花き振興協議会では、「ENJOY HOME with FLOWERS」をキーワードに初心者向けの「はじめて花屋」プロモーション活動を行ったり、「花ロス」の削減

のため、ロスフラワーの需要創造をしたりと、様々な活動が行われています。また、花き類の輸出(116億)は近年増加傾向にあり、令和12年には植木・盆栽で150億、切り花で46億、総額200億を目指す方針が出されており、日本品質の花き類は世界でも評価が高く、今後の市場拡大に期待大であります。

*花きの定義(花きの振興に関する法律2条):観賞の用に供される植物。切り花類、鉢物類、花木類、球根類、花壇用苗もの類、芝類、地被植物類をいう。

§2 外来害虫「トマトキバガ」について

昨年末より九州地方において外来害虫「トマトキバガ」が相次いで確認されています。国内では、令和3年10月に熊本県で初めて確認され、今年に入ってから、中四国4県でも発生が確認され、今後の動向に注意が必要です。海外ではトマトの「エボラ出血熱」と呼ばれるほど甚大な被害をもたらす害虫で、世界的にも警戒されており、国内でのまん延防止が求められます。

「トマトキバガ」

南米原産のチョウ目キバガ科の蛾の一種。成虫は5-7mmと小型で、触角が黒斑状、灰褐色の羽で細かい斑点があります。幼虫は淡いピンク色で頭部付近が帯状に黒く、体長8mm程度になります。卵、さなぎ、成虫で越冬することも確認されています。主に、トマト、ピーマン、ナス、タバコ、ジャガイモなどナス科植物に寄生し、また、マメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている、茎葉や果実を加害し、ひどい時には株が枯死する場合があります。繁殖力が強く、年間に10~12世代発生します。



外来農業害虫の侵入	
オンシツコナジラミ	1974年
ミナミキイロアザミウマ	1978年
タバココナジラミ(タイプB)	1989年
ミカンキイロアザミウマ	1990年
タバココナジラミ(タイプQ)	1989年
チュウゴクナシキジラミ	2011年
ビワキジラミ	2012年
クビアカツヤカミキリ	2012年
ネギネクロバネキノコバエ	2014年
ツマジロクサヨトウ	2019年

<防除方法>

現時点では登録農薬はなく、植物防疫法に基づき都道府県で使用可能とした、チョウ目害虫に効果のある農薬は散布可能となります。被害株や被害果実は圃場から取り除き、土中に埋めるか、密閉して虫を死滅させて処分します。海外では天敵生物のタバコカスミカ類による生物的防除例があります。



写真提供:熊本県病害虫防除所
図1 トマトキバガ被害葉(トマト)

写真提供:熊本県病害虫防除所
図2 被害果実(トマト)